

◆ 学会報告

- 1) 日比野康英, 藤井謙一, 塚田修市, 菅野延彦: 高度反復配列湾曲DNAに親和性を示す細胞核 scaffold 蛋白質の諸性質. 日本生化学会北陸支部第12回例会, 1994, 5, 金沢.
- 2) 草塩英治, 日比野康英, 寺川敏且, 菅野延彦: ラット肝細胞核内に存在するシスプラチン損傷DNA認識蛋白質の精製とその諸性質. 日本薬学会北陸支部第90回例会, 1994, 6, 金沢.
- 3) 日比野康英, 藤井謙一, 塚田修市, 菅野延彦: 高度反復配列湾曲DNAに親和性を示す細胞核 scaffold 蛋白質の諸性質. 第67回日本生化学会大会, 1994, 9, 大阪.
- 4) 草塩英治, 日比野康英, 寺川敏且, 菅野延彦: ラット肝細胞核内に存在するシスプラチン損傷DNA認識蛋白質の精製とその諸性質. 第67回日本生化学会大会, 1994, 9, 大阪.
- 5) 日比野康英, 草塩英治, 菅野延彦: シスプラチンによるラット肝培養細胞のDNA修復亢進. 第53回日本癌学会総会, 1994, 10, 名古屋.
- 6) 菅野延彦, 日比野康英, 小池淳平, 小西良武, 田畑智之, 大橋康宏: 椎茸菌糸体培養で得られる多糖蛋白質画分(LAP1)によるIFN- γ と窒素酸化物の産生誘導. 第53回日本癌学会総会, 1994, 10, 名古屋.
- 7) 日比野康英, 寺川敏且, 草塩英治, 神内伸也, 菅野延彦: シスプラチンによるラット肝培養細胞のDNA修復亢進作用. 日本薬学会北陸支部第91回例会, 1994, 12, 富山.

英 語

教 授 藤 本 正 文
助 教 授 松 倉 茂
外国人教師 ジリアン・S・ケイ

◆ 研究概要

(藤本) 英米文学、批評理論

(松倉) 意味論 (語用論を含む)

(ケイ) Status, Role and Expectations of Foreign Teachers in Japanese Universities; Vocabulary; English Language Teaching Methodology

◆ 原 著

- 1) 藤本正文: 英和辞典に記載が望まれる基本的単語の語法 — any, best, compare, give, in,

that, turn をめぐって. 富山医科薬科大学一般教育紀要 16:27-44, 1994.

- 2) Matsukura, S.: Inference and logical analysis of sentences. 富山医科薬科大学一般教育紀要 16:11-26, 1994.
- 3) Kay, G., Formal and Informal Expectations of Foreign Teachers at Japanese Universities, The Language Teacher, pp 4-6, 30. vol. 18, No. 11, 1994.

◆ その他

- 1) Kay, G., From the Chair, ON CUE (news letter of College and University Educators). June 1994 pp 3-5.
- 2) Kay, G., From the Chair, ON CUE. Dec 1994. pp 3-5.
- 3) Kay, G., Nationwide Survey of Gaikokujin Kyoshi Employment Status, ON CUE. Dec 1994, pp 14-16.

独 語

講 師 名 執 基 樹

◆ 研究概要

18世紀以降、文化と社会との関係は著しく変化した。それまでは、特定(伝統)文化を維持する事によって社会は構造化されてきたが、社会そのものが「文化」を生産するようになってきたのである。知識人や作家といったそのための社会的役割の職業的確立、文化媒体としてのさまざまなメディアの発展と普及、それを受け入れる広範な読者・視聴者層の成立と増大、さらに、文化生産そのものについての情報生産を受け持つ機構の登場(文芸評論・文芸欄)、こうしたものがこの変化の具体的背景をなす。1) こうした歴史的推移を研究しつつ、その方向性を探るとともに(文芸社会史)、2) 日本とドイツを中心とした外国の場合と比較する事(国際文化システム比較)が私の研究活動である。目下、文化生産における作家の(経済的、社会的)位置づけをめぐる北海道大学の研究グループの調査に参加している。

◆ 原 著

エバーマン, Th. &トラベルト, R. 「ラディカル・エコロジー」社会評論社, 田村光彰ほか訳, 1994年(共訳)